

## 2024年2月ハイパーカレンダーレポート

1990年に開始し、2年に1回のペースで開催している別府湾会議を今年度は2月27日、28日の2日間で開催した。「生成 AI」と「量子コンピュータ」を基軸に、その世界で活躍する豪華な講師陣を迎え、オンラインの参加を併せると延べ500人近くが参加する会議となった。

テーマは、「先端デジタルテクノロジーで「未来」をデザインする～生成 AI と量子コンピュータがもたらすもの～」という、恥ずかしながら、ありきたりなテーマで開催する運びとなったが、先端技術を議論する会議としては、取り扱わなくてはならない根本的なテーマだと思っている。核開発然り、ドローンの兵器利用然り、先端技術のポジティブな面とネガティブな面は常に社会を揺すってきたからだ。

私が今回の別府湾会議で気になった点は、ポジティブな面に立つ登壇者の世代だった。

量子コンピュータをテーマにしたセッションで登壇した世代は、40代が中心だったように思われる。そして、基調講演を務めた blueqat 株式会社の湊社長から、世代を表す発言があった。blueqat 株式会社の社名の由来である。

「blue qat=blue cat=青い猫」。つまり、ドラえもんを意味していたのだ。

ドラえもんは1980年の「ドラえもん のび太と恐竜」が大ヒットし、日本国民の誰しもが知るキャラクターとなった。おそらく湊社長はドラえもん世代であり、1983年生まれの私も該当する。4歳のクリスマスに、サンタクロースへの手紙にタケコプターを書いた人間は私だけではないはずだ。

また、今回の別府湾会議において、生成 AI をテーマにしたセッションにも、ドラえもんを意識しているのでは？と思われる発言があった。NTTが開発を進めている大規模言語モデル Tsudzumi である。Tsuzumi はオープン AI がリリースした ChatGPT のような汎用性は持たないが、特定の組織の情報を流し込むことで、そのスペシャリストとなる。電力も ChatGPT ほど食わない。日本語に特化した大規模言語モデルである。

一方、ドラえもんの設定は、子育てロボットであり、児童発達心理学、保育学、幼児教育学などの知識がインプットされていると想定される。作品上、ドラえもんは教育虐待に反対し、のび太を決して否定することなく、むしろ寄り添うロボットである。となると、ドラえもんは、子育てに特化したスペシャリスト AI ではないのだろうか。

NTT がドラえもん制作の基礎を開発しているというのは、ずいぶん荒唐無稽な解釈ではある。しかし、今回、登壇者の多くが、ドラえもんとともに育った世代だ。どこかでドラえもん制作の夢をみつつ、こういった世代が現在の日本における先端技術の最前線に立っているのかもしれない。



(文責：平野敬洋)